

特集 森へ川へ



児童文学において、作品の舞台やテーマとする場所は重要です。そうした、作品の〈場〉を考えるひとつの試みとして、今号では「森」と「川」をとりあげます。

森と川は、広大な海や山よりは人々の日常に近く、その生活とも深くかかわっています。また、人生の変化や分岐点、つながりや再生を象徴するような意味を持つこともあります。昔話をはじめさまざまな物語の舞台にもなり、近年では地球環境への関心の高まりとともにノンフィクションにおける探求の対象にもなっている場所です。

本特集は、そうした森や川の描かれ方や含みもつ意義について、多方面から思索し、魅力的な作品を発見するとともに、今後さらに児童文学に描かれる〈場〉がひらかれ、深まり、創作へとつながっていくことを願うものです。

さあ、森へ川へ。

児童文学を通して、出かけてみませんか？